

2. 氷河情報センターニュースの編集・発行
3. ミニシンポジウム開催の検討
4. 氷河情報センター HP の改良・充実
＜2008 年度予算案＞
- 4) その他

分科会活動支援金の利用計画について
(三宅隆之：国立極地研究所，中澤文男：
新領域融合研究センター/国立極地研究所)
(2008 年 10 月 3 日受付)

2008 年極地雪氷分科会オーガナイズドセッションおよび総会の報告

日本雪氷学会全国大会期間中の 9 月 25 日 15 : 30～18 : 00 に東京大学工学部 2 号館 212 講義室 (B 会場) にて極地雪氷分科会のオーガナイズドセッションならびに総会が 34 名の参加者を得て開催された。当日は，本山秀明分科会長の挨拶の後，以下の 1 から 6 の報告があった。ここでは，セッションならびに総会の概要を報告する。

プログラム

I. オーガナイズドセッション 15 : 30～17 : 30
「南極観測隊報告およびドームふじ観測計画の主要な成果」

趣旨説明 分科会長・本山秀明 (極地研)

1. 第 48 次南極地域観測隊 (越冬隊) 報告
福井幸太郎 (極地研)・中澤文男 (極地研)
2. 日本一スウェーデン共同トラバース隊報告
藤田秀二 (極地研)・榎本浩之 (北見工大)
3. ドームふじ観測計画報告
プロジェクト概要 本山秀明 (極地研)
深層コア解析の主要な成果
東久美子 (極地研)

II. 総会 17 : 30～18 : 00

4. 事業報告
南極観測将来計画検討 WG 報告
本山秀明 (極地研)
国際対応幹事報告 杉山 慎 (北大低温研)
ホームページ対応幹事報告
館山一孝 (北見工大)
5. 会計報告 亀田貴雄 (北見工大)
6. 役員改選

1 では，今年の 3 月末に帰国した第 48 次日本南極地域観測隊 (以下，「48 次越冬隊」と記す) の福井幸太郎氏と中澤文男氏による南極での主要な観測成果の報告があった。

2 では，日本一スウェーデン共同トラバース隊の報告があった。この調査隊は，49 次夏隊 (藤田秀二氏，榎本浩之氏，杉山 慎氏)，48 次越冬隊 (福井幸太郎氏，中澤文男氏)，スウェーデン隊 (9 名) からなる合同調査隊で，2007 年 11 月から 08 年 1 月にかけて南極沿岸の S16 地点からドームふじ基地，会合点 (72°S, 32°E, 3750 m)，コーネン基地 (ドイツ)，ワサ基地 (スウェーデン) までの約 3000 km を踏査し，このルート上でレーダー観測，積雪断面観測，化学分析用試料採取，無人気象観測装置の設置などを実施した。スウェーデン隊による内陸観測の方法は日本の内陸観測の方法と異なる点が多く，興味深い内容であった。

3 では，2007 年 1 月に 3035.22 m (おおよそ 72 万年前に相当) までの掘削が終了したドームふじ観測計画の概要ならびに主要な成果が紹介された。

4 では，今後の南極観測の動向 (南極観測将来計画検討 WG)，極地雪氷学に関わる国際的な取り組み (国際対応幹事報告)，極地雪氷学会のホームページの更新状況 (ホームページ担当幹事報告) が配布資料とともに報告された。なお，当日の配布資料は，以下の極地雪氷分科会のホームページ (<http://www.seppyo.org/~polar>) に掲載しているので，興味のある方は参照していただきたい (ホームページ画面での **活動報告** → **2008** に配布資料を掲載)。

5 では，2007 年度の会計報告とともに 2008 年度の会計計画が報告され，了承された。その際に極地雪氷分科会では 1998 年以来，会費を徴収していないため毎年の財政が徐々に厳しくなっており，今年度より有志からの寄付 (一人 1 口 1000 円) を募集することが報告された。当日さっそく 8 名の方々から寄付があった。

6 では、2008 年 9 月末で任期が切れる現行の役員の改選が行われた。事前に極地雪水分科会メンバーリストで分科会長の自薦、他薦を依頼していたが、締切日までに誰からも自薦、他薦がなかった。極地雪水分科会の役員任期はこれまでは 1 期 2 年を 2 回 (合計 4 年間) であったため、この慣例に従い現役員があと 2 年間の任期を続けることが提案され、了承された。なおホームページ担当幹事については、小嶋真輔氏 (北見工大卒、現東洋製作所勤務) に新たに加わってもらう事が提案され、了承された。

極地雪水分科会総会は年 1 回の総会であり、ここでは南極や北極域での雪氷学に関する種々の観測や関連する話題が報告されています。極地雪水分科会員以外の方々も参加可能ですので、極域の

雪氷学に興味のある学会員の方々は、ぜひ来年度の極地雪水分科会総会にご参加ください。本報告でのご不明な点などは、総会での各報告者もしくは下記の極地雪水分科会役員まで、お問い合わせください。

分科会役員 (任期: 2008 年 10 月 1 日から 2010 年 9 月 30 日): 分科会長: 本山秀明 (極地研), 幹事長: 亀田貴雄 (北見工大), 企画幹事: 鈴木利孝 (山形大学理)・川村賢二 (極地研), 国際対応幹事: 杉山 慎 (北大低温研), ホームページ対応幹事: 館山一孝 (北見工大)・小嶋真輔 ((株)東洋製作所), 監事: 佐藤和秀 (長岡高専)。

(北見工業大学 亀田貴雄)

(2008 年 10 月 4 日受付)

2008 年度雪崩分科会総会報告

2008 年度雪崩分科会総会が、2008 年 9 月 24 日 (水) 19:00~19:30 に東京大学工学部 2 号館 212 講義室において開催された。参加者は 50 名であった。

本年度は役員改選の年であることから、総会ではまず分科会会長の選出について審議された。その結果、阿部 修氏 (独立行政法人防災科学技術研究所・雪氷防災研究センター・新庄支所) が満場一致で会長に選出された (任期: 2008 年 11 月 1 日~2010 年 10 月 31 日)。続いて 2007 度事業報告・会計報告・監査報告及び 2008 年度事業計画案・予算案が示され、異議なく承認された。

その他に報告事項として、

- ① 第 19 回雪崩対策の基礎技術研修会 (長野県戸隠高原, 2009 年 1 月 22~23 日) の開催計画

- ② 第 12 回全国山岳・スキー場雪崩安全セミナーの開催計画
- ③ 福嶋祐介追悼記念セミナー (長岡市, 2007 年 12 月 19 日) の開催報告
- ④ 「雪崩対策の基礎技術 2007」の刊行報告
- ⑤ 助成企画研究採択の報告 (申請者: 安達聖会員, 研究課題: 雪氷用小型 MRI 装置による雪氷の 3 次元構造の可視化)

などが担当幹事から説明された。また、中山建生幹事から、雪崩調査時の安全性向上に向けた技術研修会 (対象: 雪崩研究者・技術者) の開催を検討している旨の報告があった。

(雪崩分科会幹事長 河島克久)

(2008 年 9 月 30 日受付)

雪崩分科会講演会の報告

雪崩分科会では、雪氷研究大会 (2008・東京) 中の各分科会企画のオーガナイズドセッションにおいて、以下のような講演会を開催した。

日 時: 2008 年 9 月 24 日 (水) 17:30~19:00

場 所: 東京大学工学 2 号館 (212 号講義室)

参加者: 50 名